

武蔵野日曜聖書講筵 降誕節

天の徴

――ルカ伝2章21～38節――

1988年12月25日

小池辰雄

開会の祈り キリストにおいて正に新しきこと 塚本先生の遺言 言い逆らいの徴―逆徴の福音― 十字架が観念化したら聖霊は来ない 使命を果たすまでは守ってください 全十巻完成 万才！ 天光 無相の相 自然・靈然・神然 聖霊の愛は最大の力 祈り

【ルカ2】

21 八日みちて幼児に割礼を施すべき日となりたれば、未だ胎内に宿らぬ先に御使の名づけし如く、その名をイエスと名づけたり。

22 モーセの律法に定めたる潔の日満ちたれば、彼ら幼児を携えて、エルサレムに上る。23 これは主の律法に『すべての初子に生まるる男子は主につける聖なる者と称えらるべし』と録されたる如く、幼児を主に献げ、24 また主の律法に『山鳩一対あるいは家鳩の雛二羽』と云いたるに遵いて、犠牲を供えん為なり。25 視よ、エルサレムにシメオンという人あり。この人は義かつ敬虔にしてイスラエルの慰められんことを待ち望む。聖霊その上に在す。

26 また聖霊に主のキリストを見ぬうちは死を見ずと示されたりしが、27 此のとき、御霊に感じて宮に入る。両親その子イエスを携え、この子のために律法の慣例に遵いて行わんとて来りたれば、28 シメオン、イエスを取りいただき、神を讃めて言う、29 『主よ、今こそ御言に循いて僕を安らかに逝かしめ給うなれ。30 わが目は、はや主の救を見たり。31 是もろもろの民の備え給いし者、32 異邦人を照らす光、御民イスラエルの栄光なり』33 かく幼児に就きて語ることを、其の父母あやしみ居たれば、34 シメオン彼らを祝して母マリヤに言う『視よ、この幼児は、イスラエルの多くの人の或は倒れ、或は起たん為に、また言い逆いを受くる徴のために置かる。35 ――剣なんじの心をも刺し貫くべし――これは多くの人の心の念の顕れん為なり』

36 ここにアセルの族。パヌエルの娘に、アンナという預言者あり、年いたく老ゆ。処女の時、夫に適きて七年ともに居り、37 八十四年寡婦たり。宮を離れず、夜も昼も断食と祈祷とを為して神に事う。38 この時すすみ寄りて神に感謝し、また凡てエルサレムの拯贖を待ちのぞむ人に、幼児のことを語り。



●開会の祈り

お祈りいたします。

1988年の皆さまのご降誕の日を記念して、ここに迎えることができ感謝いたします。私たちにとっては、単なる記念ではありません。どうぞ、この一日が我々にとって本当に、皆さま、あなたを全身に受け奉ることができるようお願い奉ります。一年間のご恩恵を心から感謝いたします。それぞれいろいろな事がありました。しかし、あなたにあつてはすべての事が働きて善に化せられ、またこの恵みに化せられ、進んで行くことを感謝いたします。

私たちは、特にこの夏の特別集会は最後の集会として非常にあなたの御光にあずかり、一同それぞれのつびきならないところを通ることができ、感謝いたします。

どうぞ、このクリスマスを迎え、また来年に向かって、いよいよ新しき志をもって進んで行くことができますように願ひ奉ります。

ここに集まれなかった兄弟姉妹たちがこの日を特にそのようにして覚えて送ることができ、またこの恵みを分かつことができ、願ひ奉ります。

今日は西の方の遠い国から、白鳥さんの奥さんが来られましたが、どうぞ、かしこにおいて白鳥君をしつかり守ってくださいるように願ひ奉ります。また、久しぶりで金谷さんが見えましたが、本当にまた今日一日特別にあなたが恵んでくださるように願ひ奉ります。その他、いろいろ祈りたきことがございます。長坂兄弟が本当は来たかったのですが、また病が、しかし、ある程度これ乗り越えることができました。感謝いたします。どうぞ、彼をあつくお守りくださらんことを願ひ奉ります。

その他、一人びとりにあるところの祈りを、どうぞ、お聴きくださるように願ひ奉ります。一切が主イエス・キリストに在って心から成っていきますように、またそのことの成ることを信じて、御名を讃え奉ります。御名に在って捧げ奉る。アーメン

●キリストにおいて正に新しきこと

では、聖書のお話をします。キリストの降誕は、これは世界の歴史に本当に新しきことが起きる、その徴である。私は今日、「天の徴」と書きました。伝道の書には、

「日の下に新しきことなし」

とありますが、キリストにおいては正に新しきことがあった。お釈迦さんの誕生もかなり新しいことですが、しかし、このキリストに比べると――そういう比較としては本当はよくないけれども――キリストは桁が違います。本当に桁が違います。我々はそのように本当にキリストを桁違いの驚くべき方として、これを日常生活でもって心の中で

「主のキヤー」

と言えば、一切がすつとんでしまうような、そういうようなクリスチャンにぜひ成ってい



ただきたい。もう、いい加減なことではもたないです。

今日のクリスマスは決してただ「おめでたい」なんていうものではない。私はもう四面楚歌の声です。本当の味方が幾人いるか。天には万軍がある。私は

「孤軍万軍」

という言葉が自然に使いました。私自身は孤軍であるが、天には万軍がある。人間はお互いにゴタゴタしているうちは、いつまでたつてもダメだ。

「まなこ眼を、全身をキリストに向けろ」

と。マルチン・ルターが、

「キリスト者の生涯は、一生涯悔い改めである」

と、宗教改革のあの大宣言の第一条で言った。あの「悔い改め」という言葉は本当は「転向」、向きを変えるということです。

「一生涯、キリストの方に向かえ」

ということ。自分でもない、人でもない。キリストです。

「キリストの他に救いがない」

とペテロも言いました。万人は救いを要します。だから、

「万人は宗教人である」

と私は言う。救いを要しない人はひとりもない。お釈迦さんでもいいですよ、仏道でも。どうぞ、仏道へ行きたかったら、仏道へ行つて結構です。超一流の坊さんたちの歴史があります。どれも素晴らしい人です。

それでも、このキリストに来ると、それが最澄、空海、法然、親鸞、道元、日蓮、誰でもちゃんと見えるんです。彼らの到達した境地以上のところに入っている。私がこんなことを言うとうと、おかしいようですけども、本当にそうです。

とにかく、

「エン・クリスト」

という、「キリストの中に」入ると、全部それが見えてくるし、それがまた本当に相手を正しく肯定する、尊敬もする。自分がないんだから。限界もわかる。更に伸ばしていく。

とにかく、このキリストという聖霊の光というものはもう例えようがない。私はその聖霊の光に導かれて、詩を書きますから、これから十何年かかかって。キチガイですよ、私は。もう恐いもの一つもない。何と言われようと、どう取り扱われようと、一向差し支えない。ゴタゴタやっている人は自分がゴタゴタになるだけのはなしです。

そういうもの凄いキリストが一人ひとり本当に入っていらつしやる。あなた方一人ひとりがあるもの凄いことになるんです。いいですね。



●塚本先生の遺言

私は今日、千何百人だか知らないけれども、はつきりとものを言ってくる。彼らは必ず喜ぶ。本当に受けとると思います。不思議なんです、このクリスマスに原始福音の大集団に、東と西に私が話しに行くようになったということは、決して彼らのただ計らいではない。神さまの導きである。

手島さんがあの1950年の秋11月3日から5日にかけての阿蘇の大集会の前に、彼は10月15日に祈りました。そしたら、

「小池先生は日本になくってはならない人だ。大きな示しがきてます」

と、彼の手紙に書いてある。私と手島さんとは、それぞれ道がちがう。私は教育界にいましたから。彼は伝道の第一線に立っていた。とにかく、火の如く燃えてた人です。無教会がなんと言おうが、かんと言おうが、そんなことは一向差し支えない。無教会はパリサイで、手島さんに燃えているものが見えなかった。

私は、塚本先生がああ病気になるる前に、最後に先生とゆつくりお話し合いました。2時間あまりだったでしょうかね。大変楽しかったです。その時に塚本先生が、

「僕の伝道はまちがっていたよ」

と言われた。ということは、

「聖霊がなかった」

ということですよ。

「西は手島君、東は小池君、君たちのが本当だから、しっかりやってくれ」と。まるで遺言でした。

ですから、来年からもしあなた方がいい加減だったら、集会を解散するよ、本当に。朝の集まり方を見ているもダメです、こんなことでは。もっと早く来て、祈るなり歌うなりしてなければ。日曜は集会の開始をわざわざ10時半にしている。向こう〔原始福音の集会〕では10時でも、約1時間前には大方来てしまうんですよ。彼らの意気込みは、それを見てわかる。ただ彼らを誉めているのではない。人のいいところは評価するんです。ただ時間の問題ではない。

私はもういろんな特別集会は全部やめたでしょ、来年からは。この集会だけなんです。これをいい加減にできないです、武蔵野の集会を。いいですね。そういう気持ちで行きましょう。キリストを本当に受けとったら、それは楽しいですよ。楽しいし、力がきてしょうがない。私はキリストに圧倒されて生きているんだから。相対的人間小池なんて見なくなっちゃったいいから。私の中に光っているものを見る。人まねはいらんです。あなた方一人びとりがそれぞれの天下一品なんだから。

まあ日本の教育が類型的なものをつくって、本当にしょうがないですよ。

「偏差値がどうの、平均点がどうの」



と、下らないことばかり言っている。一人びとりの賜りたるところの才能、資質を伸ばしてやる。そこに本当に一人びとりが大きな交響楽となつて、大交響楽となつて神を讃美することになる。存在が、それ自身が。

●言い逆らひの徴—逆徴の福音—

さきほど読みましたルカ伝2章のところのシメオンの預言。これは実は『曠野の愛』誌の26号に「言い逆らひの徴」(——逆徴の福音——、1956年秋冬合併号、1957年夏出版)という題で、清瀬の東京療養所でお話したんです、クリスマスに。これは歴史的な話でした。長坂君が非常に驚いて喜んでくれた。これを書きまして、手島さんは私の『曠野の愛』を一生懸命読んでくれましたので、

「小池先生は内村鑑三、藤井武を乗り越えた」

と、そういう葉書をくれた。彼は私よりか5、6年あとに生まれたから、私のことをいつも「先生」と言っていた。正直、最初に

「原始福音」

と言ったのも、

「幕屋」

と言ったのも、みんな私なんです。閃きがくるからね、私には。

この「曠野の愛」26号は1956年か、もう30年前に語ったものだ。

それで、この「天の徴」ですが、キリスト自身が地上に降りてきた。

「アブラハムより先にありしなり」

という方がマリヤを通して生まれた。聖霊の力で。星が輝いたり、東方から三人の博士が来たり、まあいろんなことです。だけれども、この嬰兒は——普通の嬰兒です——しかし、生まれは馬槽まぶねの中だから。宿屋がいつぱいで入れない。仕方がなしに岩窟の中に——掘つてあつたらしい——馬槽の中に生まれた。最低のどん底の生まれ方をなされた。もうそれ自身が不思議な徴です。世界の第一人者であるアウグストがローマの皇帝として治めていた時に、東の片田舎のそういう所に世界の唯一人のひとが現れた。

「日の下に新しきものなし」

というが、新しき人が現れた。それを祈り待っていた、このシメオンというのはさすがに素晴らしい人だね、聖霊の器だから。

「聖霊に、主のキリストを見ぬうちは死を見ず」

と言われていた。見てから、体験してから、それからあっち側に行きますと。

●十字架が観念化したら聖霊は来ない

あなた方も使命に生きてくださいよ。今の教育は、本当に一人びとりの使命を自覚する



ような角度の教育をしていない。精神的に日本は——経済大国というが——精神小国で、危なくてしょうがない。もういいですよ、それ自身にはもう望みがない。

「日本にはもう愛想をつかした」

と内村先生も言った。

「二つのJ、ジーザスとジャパン、これは私の愛である」

と、内村先生が言ったが、その愛してやまない日本のために、

「私は日本のため、日本は世界のため、世界はキリストのため、一切は神のため」という、内村先生らしい言葉ですね。

「自分は日本のため」

と言って、日本を愛していたけれども、しかし、捨て台詞せりふみたいに、

「もう愛想をつかした」

と。内村先生も本当に人に棄てられた人だ。

無教会というのは、そのときの教会の在り方がいい加減だったから、

「あるいは、もっと信仰そののみ、聖書そののみといって生きていこう」

という志で、無教会というのが始まったんだけど。今度は、「無教会主義」となって、主義となったら、これは歴史的意義がまた硬化してしまった。福音を主義でなんかで限定したらダメですよ。一切のイズムを超えたものです、福音の世界は。

その内村先生も聖霊のことにおいては随分素晴らしく書いてらっしゃるところもあります。けれども限定した。御霊の現象に躓いたね、内村先生は。それで聖書の研究になってしまった。「研究」という言葉が今度は躓きになった。それで一生懸命でギリシア語やヘブライ語をやる。インテリ的なクリスチャンばかり。何もそれは内村先生の責任ではないけれども。先生の文字は火花が散ってます。十字架がいつも出てくるけれども、

「十字架を仰ぐ」

ことはあっても、

「われキリストと共に十字架せられたり。もはや、われ生くるにあらず。キリ

ストわがうちに在りて生き給うなり」

という、その

「キリストわがうちに在りて」

と、そのところが希薄になってしまった。あのパウロのガラテヤ書2章20節は——いつも申し上げている通り——十字架と聖霊がはつきりと表れている一節なんです。

「キリストわがうちに」

とは何ですか。キリストの御霊でしょ、あるいは御霊のキリストでしょ。

なぜ私が84歳にもなって元気だというのは、水泳ができるからでも何でもない。聖霊の力なんです。風邪もひかない。御霊が熱いからです。ジーツと黙って祈っていても、全身



が熱くなる、私は。一番深い祈りは沈黙の祈りです。絶対に行きつまらない。いろんなことのでつくわせば、逆に力がくる。本当です。

皆さんも、六日間の生活でそういうところを戦いぬいてくださいよ。ただ日曜のクリスマスチャンではダメです。しかし、日曜はこうやって火花が散る集会をしているんだから。私はあなたの方の魂を愛するから、烈しいことも言うんです。

この無教会の限界は、要するに十字架が観念化してしまつて――悪いとは言いません――聖霊が本当に來ていない。それで、聖霊の中に入つて力が出てきた手島君と私は除外された。アウトサイダーにされた。

「おかしい、おかしい」

と言つて。異言が出れば、

「あれはおかしい。気をつけろ」

と。手島さんなんかは火渡りなんかやるものだから、なおさら彼は嫌われた。イザヤ書43章を地で行つたんだな、あの手島さんというのは。

「火にも焼けない、水にも溺れない」

という言葉がある。

〔註…「みずのなかなんじ水中をすぐるときは我ともにあらん河のなかを過るときは水なんじの上にあふれじひのなかなんじ火中をゆくときやか焚るることなくほのお火焰もまた燃えつかじ」(イザヤ43・2)〕

善し悪しはともかくも、棄身で命懸けで彼はやつたんです。人ごとではない。自分自身がみなそれぞれ真剣勝負で、ヤコブが天使と角力すもうをとつて取っ組み合う、そのような生き方をしてください。お一人お一人はそれぞれの在り方でいいですから。

1989年は、この幕屋は、この召団は凄いいことになつてもらいたい。救つてやりたい人があつたら、

「來たりて見よ!」

と、連れて來なさい。月に3回は原則として私は集会をしますから。

●使命を果たすまでは守ってください

このシメオンは、

「主を見ないうちは死なない」

という。あなた方が使命を果たすまでは、神さまは必ず守ってください。私も詩を書き終えるまでは、神さまが、キリストが守つてくださると信じています。

大体、84、85歳から大きな詩を書くなんて、世界中にいないね、そういうキチガイは。私は福音のために気が狂っているんだから。〔遺稿詩集『靈界の星々』1988/8刊〕

27 此このとき御霊みたまに感じて宮に入る。両親ふたおやその子イエスを携え、この子のために



律法の慣例に遵おきていて行わんとて来きたりたれば

まあ旧約の律法はいろいろです。それは正直、人体の骨の数ほどあるという。それをまた非常に守るんだね、彼らは。

安息日もあるしね。金曜の晩から土曜の晩までは、女の方も煮炊きはしない。金曜の日が暮れるまでに全部やっておく。やみの自動車が走っていたけれども、原則としては自動車も走れない。自動車は止まってしまおう。まあとにかく、経典に対しては非常に忠実な民族だね、彼らは。

国は破れても、この民族は破れないですね。旧約聖書が、「律法・預言者・諸書」というのがあって、旧約聖書のことです。イスラエルの国が1948年に〔1948/5/14独立宣言〕、復興したけれども、北イスラエル・南ユダの国が滅びた、ずっと二千何百年か前に〔紀元前8〜6世紀〕。また復活したけれども、しかし、果して神の御意にそっているイスラエルであるかはまた別問題です。

いいですか。本当に十字架を土台にしていれば、必ず聖霊は働き給うからね。十字架と聖霊は絶対に離してはいかん。何のためにキリストは十字架にかかれたか。我々を完全に贖あがない切るためにです。

過去の小池も、現在の小池も、未来の小池も全部、贖あがないとられているんです。問題はないです。どんなに私がガタガタしようが、そんなことは関係ない。その根源、現実を本当に受けとっていけば、必ず聖霊がきて動かしていく。

「躓すくいても転んでも倒れても前進あるのみ」と、よく言うでしょ。その通りです。

28 シメオン、イエスを取りいだき、神を讃ほめて言う、29 『主よ、今こそ御言ことばに循したがいて僕を安らかに逝ゆかしめ給うなれ。

僕を安らかに向こう側に逝ゆかしてくださいと。

30 わが目は、はや主の救すくえを見たり。

素晴らしい人だね、これは本当に。小さな赤児を見て、「もう救いを見た」と言う。

31 是もろもろの民の備え給いし者、32 異邦人を照らす光、御民イスラエルの榮

光なり』

と。ところが、「御民イスラエルの榮光」を十字架にかけた。大衆は大いにキリストにいろんなことをしてもらって救われたものだから——病を癒されたり、死人が甦よみがったり——喜んだ。ところが、最後にはみんな裏切った。

「バラバを赦ゆるせ、キリストを十字架にかけろ！」と。どういうことですか。



●全十巻完成万才!

「一つなき心を君にとどめおき我さえ我に別れぬるかな」

と。素晴らしい歌だね。手島さんが作った歌の中にこういうのがある。これはある和歌から持ってきた言葉だと思えますけれども。キリストに対しては唯一つの心しかない。これをあなたにとどめると、自分もなくなってしまう。

「我さえ我に別れぬるかな」

という、凄いい句だね。自分は無き者であると。私が

「無者」

というのはこの角度です。

「やびしきの極みに堪えて祈らまし暮れゆくみ空に魂極るまで」

手島さんも本当に寂しく、独りで泣いたことがある。けれども、キリストの中に祈り入った。全無教会からは、手島さんも私もはじき出された。けれども、この聖霊の事態を否むならば、私はキリストを否むことになる。

それぞれの教会はそれぞれの使命があつてやつておられます。結構です。けれども、使徒たちがこのキリストにしがみついていた、あのような姿が一体いくつあるだろうか。みな

「言い逆らいの徴」

になった。だから、キリストを本当に受けとると、クリスチャンの中でも言い逆らわれる、棄てられる。

いいよ、私は棄てられても。キリストは棄て給わない。キリストは絶対に棄て給わない。この破れ器をお使いになる。はつきり言えます。

「我は平和にあらず、剣を投ぜんために来れり」

とキリストは言われた、この平和の君がだよ。何ですかこの「剣」とは。御霊の剣です。

私は、この第十巻（小池辰雄著作集）を書いたら、澤田君が詩を書いてくれた。この『聖書は大ドラマである』は、澤田君の詩のような角度が中にあるわけです。『エン・キリスト』37号の28頁に載っている。

「全十巻 完成 万才！」

聖霊の火 投ぜられたり

弓弦はひきしぼられ 矢は放たれたり

第十巻 その三六六の火矢の如し

星空に走る流星のごとく

二重の的を射貫く

闇間にゆれる魂を突き刺し ひっそらい

十字の組木の懐に飛び込む



その刹那！

矢先の炎 組木の油 破碎くだけの魂

火玉となりて 燃えさかる

神の火矢 万人の胸を 貫き抜かん

全十巻の完成を感謝して 1988年11月28日

いやはや、恐れ入りました。

●天光

この言い逆らしいの徴は遂に十字架にかかる。そうすると、マリヤの胸が突き刺されたと同じだということも、もう預言しているんだ、このシメオンが。

³⁵ 剣なんじの心をも刺し貫くべし

という。

七つの悪鬼を追い出されたマグダラのマリヤは一番キリストにしがみついたね、あの女性。ナルドの香油を頭からふりかけたり、墓場には真つ先に行つた。十字架の下に行つて、キリストの御足にしがみついた。ロダンもえらい彫刻をしましたけれども、あれはマリヤの気持ちを表した。「註・小池辰雄著作集第二巻『芸術のたましい』の口絵「キリストとマグダレーナ（ロダン、1894年作）」を参照」

とにかく、キリストの中へ飛び込まなくては。十字架という門を通つて。必ず飛び込めるんです、開かれたる門だから。そこは詩篇23篇のごとき、聖霊の水が湧いている、聖霊の風が吹いている、聖霊の光によるところの花が咲いている。

昨日、ある人からちよつと話を聞いたが、魂のいい人は仮死状態になると、向こう側の素晴らしいお花畑みたいなものが見えてくるそうさ、

「見てきました」

と言う「臨死体験」。いつかのクリスマスで凄いいことが起きたことがある。

³² 異邦人をてらす光、御民イスラエルの栄光なり

と。この「光」です。私はこの頃、「天光」という雅号で自分のことを書き出しているが、光は太陽であつても、星であつても、どっちでもいい。これは光です。漢字というのは素晴らしい。「光」という字自身が本当に光そのものを具象化している字だから「七つの光線が放っている形」。内側からキリストが光り給うから、闇がなくなる。もうキリストを裏切つたら、福音を裏切つたら、地獄に行くよりかしようがないよ、偽りと裏切りが一番悪い。

この十巻を原始福音の人が、

「先生、もう三分の一読みました。もう読んでいると、とてもやめられませんが」

と言う。急いで読まなくていいですよ、一日一頁で。本当に体にこなしてください。どの頁も私は決して頭でなんか書いてませんから。



●無相の相

シメオンは、キリストがどんなに光であるかと。この光に逆らう者はみな滅びていく。

³⁴シメオン彼らを祝して母マリヤに言う『視よ、この幼児は、イスラエルの多くの人の或は倒れ、或は起^たたん為に、また言い逆いを受くる徴のために置かる。』

パウロは逆らつていたから、いつペン引つくり返された。それから立たされた。我々もそうなんですよ。キリストに引つくり返されるんだ、先ず。降参するんだ、

「参りました!」

と、降参すると、その世界に入れる。

「聖書が分かるの分らないのと、そんなことではない」

と、しよつちゆう言っているでしょ。ええ。もう福音書のキリストにぶつかつて、

「いや、桁違いの実存で、もう降参です。聖書解釈もヘッタクレもありませんでした。

御言に参りました、御業に参りました!」

と平伏す。そうすると、キリストが捕まえて起き上がらせてくださる。

そんな入門書は一つもないよ、世の中に。

「どういようにように解釈するだの、どういようにように読めだの」

と。私がそんなものを書いたつて、今度は本屋が出さない。とにかく、「言い逆らいの徴」だ。

世には受け容いられないんだ。『無の神学』〔小池辰雄著作集第三卷1982年5月刊〕を書

いたつて、誰もこの書評を書かない。問題にもしない。

私が詩を書き終わつたら、初めて目が醒めるだろうね。それはもの凄^{こわ}い詩を書くから。

詩としてはダンテやゲーテにはかありませんよ、あの大詩人には。しかし、内容的には負

けませんよ。けれども、

「夜はダンテ、昼間はゲーテを相手にしている」

というような面白い言い方をしているんだけど。しかし、第一流のものを相手にできるといふことは、キリストの光が来ているからです。

皆さんもそうだよ。何も恐いものはない。そしてまた、すべてを本当に食べることができ、飲むことができる。

キリストの降誕に会つて、こういう烈しい素晴らしいことをシメオンは言った。聖書の中の本当に大事な一節だね、ここのところは。この預言の通りなひとだから、キリストは。「言

い逆らいの徴」だから。棄てられたる石だから、「隅^{すみ}の首^{おやいし}石」だから。

アンナというこの女預言者も凄^{こわ}いね。

そういう、このキリストを受けとつて、もうどんなに言い逆らいの徴に、我々自身が、あなた方一人ひとり、言い逆らいの徴になつたら、本ものだと思つてください。

「あ、自分は本ものになつたか」



と。ただ人に

「よし、よし」

と言われているのではない。しかし、クリスチャンは素晴らしいいろんな面を持っているんです。それはパウロが示している通り、

「弱き者には弱き者となり、律法おきてにある者には律法にある者の如くなり」

という。それはみんなその同じ次元に自分を置いて、そして相手をもうひとつ上の次元に救い上げてやるために、自在な姿になれる。

水と同じです。方円に従って溢れるんです。これ（コップの水）は溢れないけれども。水は溢れるんだ。これは丸い入れ物だから、水は丸くなる。そして溢れていく。泉だよ。泉の水です。

「汝のうちに水は泉となって湧き出いでる」

と、キリストはサマリヤの女に言われたでしょ。あれです。ある時は、静かな湖の水だ。ある時は、滝と流れる。岩をも砕く。嵐にもなる。山津波も起こす。

このキリストの聖霊の世界に入ると、無相むさうの相さうなんです。

「こういう相さうだ」

というものではない。本当にその時その時でもって自在に表れていく。なんと自由ではないかと。

●自然・靈然・神然

本当の自由、それが本当の靈然しんぜんの世界です。靈然しんぜんという。自然界は自然しぜんという。人間の本当のところにくると靈然しんぜんの人になる。キリストだけが神然しんぜんのひとです。神然しんぜんだ。御靈ごりょうのひとは靈然しんぜんなんです。そして、相手によってこちらの在り方がいろいろな姿になる。何とかして敵をも救い上げてしまおうわけだ。弱い人には力を与えてあげるためだから。上から昂然こうぜんとやるのではない。それはパウロが言っている通り、コリント後書だったかな。

〔註〕「弱き者には弱き者となれり、これ弱き者を得んためなり。我すべての人には凡ての人の状さまに従えり、これ如何にもして幾許いくばくかの人を救わんためなり」(コリント後9・22)

みんなこの『聖書はドラマ』の中に書いてあります。まあこれをね、あなた方はこの一巻を本当に読みやぶってくださいよ。そしたら、もう聖書が楽しくてしょうがなくなるから。だから、こないだも言ったでしょ、

「私はこの一巻が出たのでいつ休たおれてもいい。もう私はいつ休たおれても悔いはない」

と。そういう一巻なんだ、第十巻というのは。詩を書くことと矛盾するようなことを言っているけれども、「絶対矛盾の自己同一」というやつだ。もちろん、「これが完璧だ」なんて言っているのではない。これ自身も破れ器です。けれども、これは何者もこれを倒すことのできないものを持っている、この本は。



そういう、「言い逆らしいの徴」なるキリストが現れたんです。特にこのクリスマスは「言い逆らしいの徴」、この「天の徴」というのはキリストのことです。それを受けとるんだから、私たちは。しかし、「言い逆らしいの徴」が本当は人を救うんだ、これが。同じ次元で「よし、よし」

なんていうのは、人を救うことができない。
「やっぱりあれは本ものだった。参りました！」

と。あなたが地上の生涯が終わって、次の世界に行く時、あなた方一人びとりの真価が分かるというような存在になってください。地上では結果なんか出なくなつていいから。私の兄貴〔小池政美 1895/7/15～1921/9/22〕は私にとってそのような徴なんだ。だから私はこのようにされた。いいですね。所を得るも得ざるも、決して水を割らずに、本当のことを言い、また為^なしていきなさい。本ものは必ず人を打つんです。その時は、それこそ言い逆らつても、あとで

「いや、参りました！」

ということになるんです。いいですね。ということは、しょつちゅう何か

「喧嘩しろ、喧嘩腰で行け」

なんて、そういう意味ではないですよ、間違えないでください。

●聖霊の愛は最大の力

しかも、シメオンはお母さんを祝しているわけだ。

「素晴らしい子どもで出来ましたね。本当の光ですよ。どんなに十字架にかかっても——いや実は十字架が本当に言い逆らしいの徴となつて——十字架というものにかかったのは、これは実はキリストの本当の愛なんだ」

と。この十字架というものに表れたキリストの棄身の愛、贖いの愛、これに参つた。

「私もそれによつて救われた一人です」

と、書いてあるよ、この本にちゃんと。

〔註：「このキリストこそは救主でパウロを救いあげた。私も救われた一人である」(11月20

日「罪との戦」の項)〕

その力、キリストは力ある方です、本当に。御霊の力だ。どうですか。

いいですか、御霊の力をもつて、来年は大いにあなた方はご自分の仕事をやってください。御霊は、力を持ち、光を持ち、智慧を持ち、何でもあるから、御霊の中にはいいものが説明しきれないです。無限無量の内容です。

そのことを一番表しているのが、何といつてもパウロです。キリストに言い逆らつていたパウロが、逆にキリストに参つてしまつて、そして、聖霊のあらゆる素晴らしいものがパウロにおいて展開している。やはり選びの器だね、パウロというのは。パリサイの権化^{ごんげ}が、



キリストの愛の、信・望・愛の権化になってしまった。

熾さかんなるかなですよ、キリストは。いいですか、皆さん。このクリスマスはそういった熾さかんなる生命を持ち、力を持っているところのこのキリストを受けとって、あなた方自身が熾さかんなる人になっていただきたい。

言い逆らわれても、何も返答はいらない。ちゃんと相手を包んでしまう、相手を担ってしまう。そういう力を持っている、そういう愛を持っている。

いつか、この26号(『曠野の愛』)を読んでみてください。

〔註：『曠野の愛』誌はホームページ『小池辰雄文庫』に掲載中〕

「へえ、30年前にこんなことをちゃんと書いていたか」

なんてね。

「聖霊の愛は最大の力である」

〔註：「キリストの愛のみ霊の福音は驚くべき力を持っています。霊愛は最大の力です」〕

なんて、いやはや大変な文章だな、これはなかなか。今度は、そうだね、そのうちにまたパンフレットを少し作るというね、伝道用に。

それで、あなた方も来年からの希望を大いに立てて、そしてこの御霊の力で、御霊の光で進んで行きましょう。

そろそろ時間になりましたから、話はこれでお終いにします。

● 祈り

主さま、あなたがこのようにして、この兄弟姉妹たちと、主イエス・キリスト、言い逆らいの徴なる方をシメオンと共に迎え奉ることができ、感謝いたします。どうぞ、あなたの驚くべきこの内容は、私たちに自在にお入りくださって、そして一人びとりを自在にお使いくださらんことを願います。

来年に向かって、いよいよ希望より希望へ、光より光へ、力より力へ、本当の智慧から智慧へと、一人びとりをあなたが導いてくださることを信じて御名を讃え奉ります。

この召団はそのようにして大きな交響楽となって、キリストの火に燃えて進んで行きま。どうぞ、そのようにしておん導きください。また、今日迎えているところの十一召団のそれぞれの集いをあなたが導いてくださって感謝です。どうぞ、それぞれが本当にキリストをお迎えして、このみ光にあずかって、み愛に圧倒されて進んでいくことができますように願います。

尽くしません、心からの感謝と讃美、兄弟姉妹たちのそれと共に、御名にあつて捧げ奉る。アーメン。

では、讃美歌512番「わが魂の慕いまつる」を歌います。



この毎朝5時頃、私は曙の明星（あしたの星）を見ているけれども、黙示録の終わりの方にキリストのことを「曙の明星」と言っている。

〔註〕「われイエスは我が使を遣して諸教会のために此等のことを汝らに証せり。我はダビデの嗣業また其の裔なり、輝ける曙の明星なり」（黙示録22・16）

讚美歌512 「わがたましいの」

- | | | |
|---|-----------------|---------------|
| 1 | わがたましいの したいまつる | イエス君のうるわしさよ、 |
| | あしたの星が、谷のゆりか、 | なにになぞらえてうたわん。 |
| | なやめるときに わがなぐさめ、 | さびしき日のわがとも、 |
| | きみは谷のゆり、あしたのほし、 | うつし世にたぐいもなし。 |
| 2 | 身のわずらいも、世のうれいも、 | われとともにわかちつつ、 |
| | いざなつものの ふかきたくみ | やぶりたもうつれしさよ。 |
| | ひとと棄つれど きみはずで、 | みめぐはいやまざらん、 |
| | きみは谷のゆり、あしたのほし、 | うつし世にたぐいもなし。 |

